

世田谷いちい保育園南ウイングの保護者の皆様へ

2024年度に当園が受審した福祉サービス第三者評価の結果についてお知らせいたします。

※以下は、福祉サービス第三者評価機関である株式会社学研データサービスが作成した評価結果の概要です。なお、評価結果の詳細につきましては、「とうきょう福祉ナビゲーションのホームページ（<http://www.fukunavi.or.jp/fukunavi/>）からご覧いただけます。

福祉サービス第三者評価結果概要

特に優れている点

運営計画と指導計画などは職員全員で共有して日常的に参照し、同じ視点を持って保育に取り組んでおり、保護者にも方針を伝えていきます

運営計画は前年度末に職員全員で検討して作成しています。全体的な計画・指導計画（期案）は、前年度末に各クラスで検討のうえ、クラスリーダーが持ち寄って決定します。いずれも策定後は全職員に配付しています。園運営の反省評価や週日案の策定はこれらの計画に基づいています。全職員で共有していることから、法人の理念や保育方針に向かって一貫した意識を持って保育に臨んでいます。保護者には、園の玄関に配置して閲覧できるようにしているほか、クラスにより、園より、行事のお知らせで指導計画のねらいを記載して周知しています。

子どもたちが発達状況や自分の興味に沿って主体的に遊べるように環境を整え、また集団活動も楽しめるようにしています

0～2歳児と配慮の必要な子どもには個人別指導案を作成しています。表現の発達では、0歳児が腕を動かしてマラカスや太鼓の音を楽しむことから、5歳児が自分で考えたものを形にする廃材遊びまで、年齢別の「発達表」を作成しています。そのうえで興味に合わせて主体的に取り組み、力を身に付けられるように配慮しています。また0歳児から人との触れ合いややり取りを楽しめるように関わり、1、2歳児ではしっぽとりやだるまさんがころんだ、3～5歳児では「どろけい」やドッジボールなどルールのある集団遊びができるように配慮しています。

運動会や発表会では園全体または各クラスでストーリー性を持たせることによって、子どもたちが主体的に取り組めるようにしています

行事のうち特に運動会や発表会は、ストーリー性を持たせて子どもたちが主体的に取り組めるようにしています。今年のフェスタ（運動会）では法人のキャラクター「しずくん」をテーマに虹の破片を集めるダンスや競技をしました。発表会でも絵本を題材にして0歳児ではキャラクターを通じてのやり取りをしたり、1歳児では絵本の題材からパンを作るまでの物語を演じたり、5歳児ではなぞときを入れてみんなが一緒に作り上げる楽しさを感じられるようにしました。保護者には行事を作り上げる経過をアプリによって写真入りで配信して伝えています。

さらなる取り組みが期待される点

小学校との連携として子どもの情報共有を行っています、さらに子どもが小学校生活の楽しさを感じられるような交流も望まれます

園では子どもの就学に向けて、小学校に保育所児童重要録の提供や、配慮が必要な場合には個別に申し送りをするなど、支援を行っています。同時に園は、小学校との連携という面では、近隣の学校との交流をさらに増やす必要があると考えています。具体的には、小学校を訪問して子どもたちが見学したり、小学生と交流したり、小学校の先生から小学生生活についての話を聞く機会を持ったり、などを検討しています。子どもが小学校生活を、より楽しみにできるように、今後の積極的なアプローチを期待します。

事業継続計画(BCP)については、今後も多様な観点から計画内容、それに伴う備えや対応体制の点検を継続していくことを期待します

園の事業継続計画(BCP)は前年度に策定され、見直しをしたうえで今年度の計画内容に至っています。日常の備えから、災害発生時において安全確保と地域への安全貢献、事業の縮小・中断、そして事業の再開へと、BCPの趣旨に沿った流れで対応計画が組まれています。一方、昨今の様々な災害事例では「想定外」の原因や事象が被害の最小化を阻んでいる傾向です。いざ災害に遭遇した時に、計画がいかに実効性のある内容か、その通りに対応する体制は十分かについての検討を、今後も進めていくことを期待します。

法人の中長期経営計画に対応して、最終年度までの園としての取り組みの重点を、何らかの形で年度ごとに示してはいたがでしようか

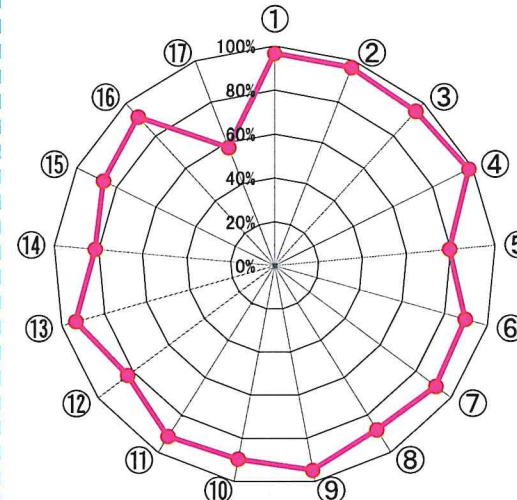
法人共通の中長期経営計画は2021年からの5か年計画として策定されています。それを踏まえて、園は単年度事業計画である運営計画を策定しています。運営計画の内容は、単に取り組み事項の羅列でなく、園運営と業務の方向性を全職員で共有し、それに沿って一貫した意識付けができる構成で記載されています。これに加える点として、中長期経営計画の目標を踏まえて、園としての最終年度までの目標を、年度ごとに段階的に示してはいたがでしよう。職員に対して、より長期展望に沿った形で意識付けが図れるでしょう。

利用者アンケート結果概要

実施期間：2024年11月18日(月)～2024年12月2日(月) 回収率：51.8%

※12月11日到着分まで集計

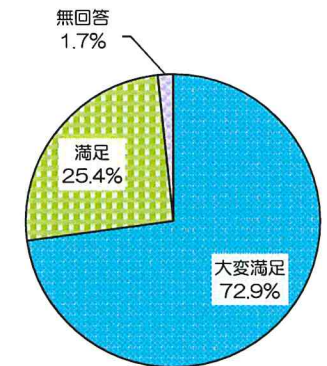
質問別「はい」の回答率



〈質問項目〉

- ① 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか
- ② 保育所での活動は、子どもが興味や関心をもって行えるようになっているか
- ③ 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか
- ④ 園生活で身近な自然や社会と十分関わっているか
- ⑤ 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか
- ⑥ 安全対策が十分取られていると思うか
- ⑦ 行事日程の、保護者の状況に対する配慮は十分か
- ⑧ 子どもの保育について、家庭と園に信頼関係があるか
- ⑨ 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか
- ⑩ 職員の接遇・態度は適切か
- ⑪ 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか
- ⑫ 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか
- ⑬ 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか
- ⑭ 子どもと保護者のプライバシーは守られているか
- ⑮ 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか
- ⑯ 利用者の要望や不満はきちんと対応されているか
- ⑰ 外部の苦情窓口（行政や第三者委員等）にも相談できることを伝えられているか

園に対する総合満足度の結果



利用者アンケートの結果や福祉サービス第三者評価の結果の詳しい内容は、「とうきょう福祉ナビゲーション」のホームページで公表します※。（福祉サービス第三者評価のページからご覧いただけます）

※結果が公表されるまでに時間がかかる場合があります



「とうきょう福祉ナビゲーション」URL
<http://www.fukunavi.or.jp/fukunavi/>

パソコンまたはスマートフォンでご覧ください

園からのコメント

今回の第三者評価を受審し、客観的に当園の保育を考えることができました。良かったところは今後も職員で振り返りを行いながら継続し、さらなる取り組みが期待される点は、子どもの視点に立ち、子どもたちにとってよりよいものとなるように職員間で話し合いを進めながら取り入れていきたいと思います。

今回の結果に満足することなく、利用者の皆様や、地域の子育て家庭の拠点となるような開かれた園を目指していきたいと思います。

【福祉サービス第三者評価 評価機関】

株式会社学研データサービス R&C評価事業部
(認証評価機関番号 機構Q5-149)

